



つなぐ つなげる つながる 人と心



「サンキュー ありがとう」。39日間の夏休みが終わり、40日ぶりに子供たちが戻ってきて、常磐小学校が再びにぎやかになり笑顔であふれました。1学期の終業式で**出逢い**の話をしましたが、子供たちの様子を見たり話を聞いたりすると、たくさんの人や物と出逢い、様々な体験や経験ができ、充実した夏休みを過ごせたことを大変うれしく思います。また、大きな事故やけがもなく、無事に学校へ送り出してくださった保護者の皆様には、心よりお礼申し上げます。

さて、今年の夏は、新型コロナウイルスの位置づけが変わった昨年以上に盛り上がりを見せました。世界的にみると、3年前に行われた東京オリンピックでの無観客試合とは違って、パリオリンピックでは、世界中から集まった観客が見守る中で、各国代表選手の皆さんは大歓声に包まれながら全力で競技することができ、各会場で選手と観客が一体となって熱気に満ち溢れていました。



同様に常磐学区でも、滝町主催の盆踊りや滝新町主催の納涼夏祭りが行われ、子供たちはもちろん保護者や地域の方々がたくさん集まり、熱気に包まれていました。両会場ともに子供たちが檜の上で力強くリズムカルに太鼓を打つ姿や、人々が輪になって様々な音楽に合わせて楽しみながら笑顔で踊る姿は、見ていて微笑ましく地域の和を感じました。見慣れない顔もあり、家族や親せき、学区外の友達も集まって、**人と人のつながりの大切さ**を肌で感じました。



2学期の始業式では、オリンピックで大逆転により金メダルを獲得した、体操男子の団体チームの話をしました。最終種目の鉄棒の前で、1位の中国と3.267点差があり、これは逆転はほぼ不可能という数字でした。しかし、日本チームは、二つの言葉をキーワードに、戦っていたと思いました。

一つ目は「**絶対に、あきらめんな**」です。キャプテンの萱和磨(かやかずま)選手は、前回の東京オリンピックで、わずか0.103の点差で銀メダルとなった悔しい思い出があります。だからこそ、絶対にあきらめず、戦い抜こうという強い思いがありました。萱選手は、試合中終始「あきらめんな」を連呼し、仲間を鼓舞し続けていました。

もう一つの言葉は「**つなぐ**」です。自分がいい流れを作って次の選手につなごうという、仲間への熱い思いです。着地をしっかりと決めて流れを作り、**演技をつなぎ、心をつなげ**、最後には中国を逆転することができ、みごとに**金メダルへとつながり**ました。最高の笑顔と喜びの涙が入り混じった歓喜の瞬間でした。**人と人の心のつながり、固い絆**を感じました。

2学期も、**勉強で意見をつないだり、様々な行事で思いをつなぎあったり**してください。また、**どんなこともあきらめずチャレンジ**してください。そして、決していじめをすることなく、優しく思いやりをもって、みんなが**笑顔で元気よく**過ごせることを願っています。

天候不順にもかかわらず、PTA資源回収に多数ご協力くださり、誠にありがとうございました。